

エクセルファイルにてご回答いただける方は、以下の URL からダウンロードをお願いいたします。  
<http://www.kawai-juku.ac.jp/research/unv/> (短縮 URL <https://goo.gl/69qLTX>)

# グローバル社会に対応した大学教育調査

本質問紙は**学部長**に対して回答をお願いしています。

**学部調査用**

■ 2016 年度の貴学部についてお答えください。

大学名 \_\_\_\_\_

学部名 \_\_\_\_\_

学部系統 (貴学部該当する系統を以下から 1つだけ選び、○を記入してください。学科・コースによって複数の系統にまたがる場合には、最も学生数の多い学科・コースに該当する系統をお選びください)

1) 文・人文 2) 社会・国際 3) 法・政治 4) 経済・経営・商 5) 教育 (教員養成課程) 6) 教育 (総合科学課程)

7) 理 8) 工 9) 農 10) 医・歯・薬・保健 11) 生活科学 12) 芸術・スポーツ科学 13) 総合・環境・情報・人間

学部の1年生の定員 \_\_\_\_\_ 人

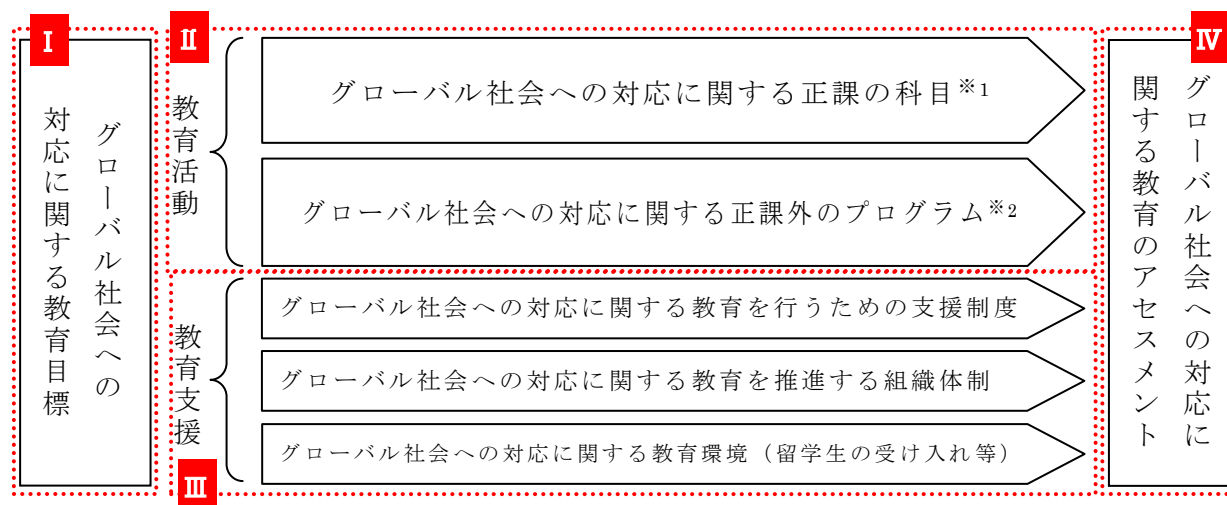
■ ご回答くださった方についてお答えください。

ご回答者	所属		(フリガナ)	
	役職		お名前	
ご連絡先	TEL		FAX	
	e-mail			
ご住所	〒 _____			

※ ご記入いただいた個人情報は、ご回答内容に関する問い合わせ、調査報告書の発送、及び、今回調査報告に関する案内のためのみに使用いたします。

## 調査説明 1：本調査で対象とする領域

本調査でご回答いただく項目とそれらの関係は以下の図のとおりです。なお、破線の枠囲みの右上にあるローマ数字は、それらを問う設問番号です。



※1 正課の科目：単位化されている科目・プログラム。単位化されている場合には、海外留学・海外交換留学プログラム、海外プログラム、海外インターンシップ、海外ボランティアも含まれる。

※2 正課外のプログラム：大学によって提供されているが単位化されていないプログラム・取り組み。例えば、海外留学、海外プログラム、海外インターンシップ、海外ボランティアなどが該当する。

ご記入いただく科目・プログラムのいずれも、扱う言語は英語のみとします。このように設定した理由は次のとおりです。

- ① 3つ以上の母語を持つ人たちがコミュニケーションを取る場合、世界共通語としての英語使用が一般化している。
- ② 文部科学省も世界共通の言語として英語教育に注力している。
- ③ スーパーグローバル大学等事業でも英語に絞られている。

なお、科目やプログラムで扱う言語が英語以外の場合には、最終頁のV-1にその内容をご記入ください。

## 調査説明2：教育活動における科目・プログラムの分類

教育活動における科目・プログラムについては以下のような分類で調査します。破線内にあるローマ数字と算用数字は、その分類を問う設問番号です。

学修シチュエーション・目的別 学修内容別		国内での学修		海外での学修	
		知識・技能の 修得・定着のための 科目	知識・技能の活用・ 実践のための科目	海外留学・ 海外プログラム	海外インターンシップ・ 海外ボランティア等
グローバル社会への対応に関する 単位認定される正課の科目	社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力を育成する 正課の語学教育科目	Ⅱ - 1			
	外国の社会・文化・歴史の自文化との対比・比較を学修する、または日本文化の発信を学修する等の、文化比較や異文化対応力を培う正課の専門外科目	Ⅱ - 2		Ⅱ - 4	
	英語で専門知識を学修する 正課の専門科目	Ⅱ - 3			
グローバル社会への対応に関する 単位認定されない正課外のプログラム	<p>【国内でのプログラム】 留学生と日本人学生による、あるいは地域コミュニティでの異文化理解に関する取り組み、NGOや公的／民間の組織と連携した取り組み</p> <p>【海外でのプログラム】 海外留学、海外プログラム、海外インターンシップ、海外ボランティア</p>	Ⅱ - 5			

## I グローバル社会への対応に関する教育目標

### 1. 将来目指してほしい人材のイメージ

1) 貴学部の卒業生に将来目指してほしい人材のイメージをお教えてください。多くの学生にこれを目指してほしいという主たる想定人材には◎、その他に一部の学生について想定している人材には○を記してください。

人材のイメージ		人材イメージの説明	将来目指してほしい人材 (◎：主たる想定人材、 ○：想定している人材)
A	<u>日本国外</u> で活動できる高度専門職・研究者	国際医療従事者、外国資格の公認会計士、外国資格の弁護士、国外で活動する企業所属の研究者、国外での学会発表や国外の研究機関との共同研究・開発を行う研究者など	
B	<u>日本国外</u> で活動できるビジネスパーソン (エンジニアなども含む)	現地の人々との折衝、現地職員のマネジメントを伴う海外勤務者、プラントやインフラなどの構築物の建設およびメンテナンス、生産技術、システム開発などの技術者業務を海外で行うエンジニアなど	
C	<u>日本国内</u> で外国人・海外法人に対応できる人材	国内で活動し（都市部に限らず地域社会でも）、外国人・海外法人とのコミュニケーションを行う人材、地域のグローバル化を担う人材など	
D	グローバル社会に対応する人材像は特に意識していない		

2) グローバル社会への対応という観点から、貴学部が考える、卒業生に将来目指してほしい人材のイメージがあれば、以下に自由にご記入ください。

## 2. グローバル社会への対応に関する教育目標と、涵養を目指す能力（学部の教育目標）

以下にグローバル社会への対応にかかわる貴学部の教育目標を記入し、その教育目標は、①社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力、②社会・文化・歴史などを踏まえた異文化対応能力、③専門知識・技能に関する英語による理解・発信力のうちの、いずれの能力の涵養に該当するのか、最も近い能力に○を記入してください（複数能力への回答可）。

グローバル社会への対応に関する、明文化されている教育目標 (ディプロマポリシー、身に付けさせたいコンピテンシー等)	①	②	③
	社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力	社会・文化・歴史などを踏まえた異文化対応能力	専門知識・技能に関する英語による理解・発信力

## 3. グローバル社会への対応に関する教育目標を達成するための、カリキュラム設計上の工夫

貴学部では上記教育目標を達成するために、カリキュラム全体としてどのような設計上の工夫をしていますか。

学部での副専攻プログラムなども含め、大きな仕組みについてご記入ください。英語科目に限定したカリキュラムの工夫は設問Ⅱの項目で別途質問します。

## II グローバル社会への対応に関する教育活動

### 1. 社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力を育成する正課の語学教育科目について

#### 1) 英語科目の卒業必要単位数、標準的取得単位数、4技能についての科目分布

①貴学部の学生の上記英語科目の卒業必要単位数は何単位ですか。

(学科・コースにより異なる場合は1つを選び、学科・コース名を明記した上でお答えください)

\_\_\_\_\_ 単位 (学科またはコースを選択して回答された場合) \_\_\_\_\_ 学科・コース

②貴学部の学生の上記英語科目の卒業までの標準的取得単位数は何単位ですか。

(学科・コースを選んで回答される場合は、①と同一の学科・コースでご回答ください)

\_\_\_\_\_ 単位

③上記英語科目全体のうち、以下に該当する科目数をご記入ください。

(英語科目提供組織が学部か全学組織かを問わず、学部生が履修する科目についてお答えください)

i. リーディング・ライティングを重視する科目の数 \_\_\_\_\_ 科目設置

ii. リスニング・スピーキングを重視する科目の数 \_\_\_\_\_ 科目設置

iii. 4技能を総合的に学ぶ科目の数 \_\_\_\_\_ 科目設置

#### 2) 英語能力育成の目標設定等について

①学部で英語能力の目標設定が行われている場合には以下にご記入の上、を付けてください。

(学科・コースを選んで回答される場合は、①と同一の学科・コースでご回答ください)

i. TOIEC スコア \_\_\_\_\_ 年次 \_\_\_\_\_ 点 進級要件にしている 進級要件にしていない

卒業時 \_\_\_\_\_ 点 卒業要件にしている 卒業要件にしていない

ii. TOEFL iBT スコア \_\_\_\_\_ 年次 \_\_\_\_\_ 点 進級要件にしている 進級要件にしていない

卒業時 \_\_\_\_\_ 点 卒業要件にしている 卒業要件にっていない

iii. その他の学外テスト \_\_\_\_\_ テスト名 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ 年次 \_\_\_\_\_ 点 進級要件にしている 進級要件にしていない

卒業時 \_\_\_\_\_ 点 卒業要件にしている 卒業要件にっていない

3) 社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力を育成する正課の語学教育科目の相互の関連など、カリキュラム設計上の特徴・工夫がありましたら具体的にご記入ください。

例) リーディング・ライティング科目とリスニング・スピーキング科目で同じ題材を扱い相互に関連させている

4) 社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力を育成する正課の語学教育科目と、英語で専門知識を学修する正課の専門科目とのつながりについて、カリキュラム設計上の工夫がある場合は、具体的にご記入ください。(英語で専門知識を学修する専門科目の具体内容に関しては、Ⅱ－3でご記入いただきますので、本項では科目間のつながりについてのみご記入ください)

5) 国内・キャンパスで社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力を育成する語学教育科目のうち、リスニング・スピーキングを重視する科目（コミュニケーション英語等）についてご回答ください。

（英語科目提供組織が学部か全学組織かを問わず、学部生が履修する科目についてお答えください）

履修時期※1			科目名	単位数	クラス数※2	1クラス当たりの学生数	履修状況		内容	当該科目と関連する科目	授業での使用言語 (いずれかに○)		担当教員の立場 (人)			担当教員の母語 (人)		
年次	学期						必修／選択	選択の場合の履修率 (x/%)			英語のみ	英語と日本語	常勤	非常勤	業者からの派遣講師	日本語	英語	その他
	前期	後期																
							x < 20 20 ≤ x < 40 40 ≤ x < 60 60 ≤ x < 80 x ≥ 80											
							x < 20 20 ≤ x < 40 40 ≤ x < 60 60 ≤ x < 80 x ≥ 80											
							x < 20 20 ≤ x < 40 40 ≤ x < 60 60 ≤ x < 80 x ≥ 80											
							x < 20 20 ≤ x < 40 40 ≤ x < 60 60 ≤ x < 80 x ≥ 80											
							x < 20 20 ≤ x < 40 40 ≤ x < 60 60 ≤ x < 80 x ≥ 80											
							x < 20 20 ≤ x < 40 40 ≤ x < 60 60 ≤ x < 80 x ≥ 80											
							x < 20 20 ≤ x < 40 40 ≤ x < 60 60 ≤ x < 80 x ≥ 80											

※1 履修時期では、年次欄には履修を指定あるいは推奨している年次を記入してください。学期欄には、担当している学期に○、通期開講の場合には前期・後期の両方に○、3学期制の場合の1学期は前期、2・3学期は後期として記入してください。

※2 クラス数欄には、複数のクラスに分かれて実施している場合にはそのクラス数を、単一クラスには“1”を記入してください。



2. 外国の社会・文化・歴史の自文化との対比・比較を学修する、または日本文化の発信を学修する等の、文化比較や異文化対応力を培う正課の専門外科目  
国内・キャンパスで外国の社会・文化・歴史の自文化との対比・比較を学修する、または日本文化の英語での発信等の、文化比較や異文化対応力を培う貴学部提供の正課の科目（必修か選択かに関わらず）についてご記入ください。

該当する科目は何科目ありますか。 科目 該当する科目のすべて、あるいは代表的な科目の例について以下に記入してください。

履修時期※1			科目名	単位数	提供組織 (いずれかに○)		クラス数※3	1クラス当たりの学生数	履修状況		目的※4 (いずれかに○)		文化比較や自文化の相対化を促す取り組みについての内容	当該科目と関連する科目	授業での使用言語 (いずれかに○)						
年次	学期				貴学部	貴学部以外の組織※2			必修／選択	選択の場合の履修率 (x%)	外国の社会・文化・歴史に関する知識・技能の修得・定着	外国の社会・文化・歴史に関する知識・技能の活用・実践			日本語のみ	英語のみ	英語と日本語	その他※5			
	前期	後期																			

※1 履修時期では、年次欄には履修を指定あるいは推奨している年次を記入してください。学期欄には、担当している学期に○、通期開講の場合には前期・後期の両方に○、3学期制の場合の1学期は前期、2・3学期は後期として記入してください。

※2 提供組織で「貴学部以外の組織」を選択した場合には、「文化比較や自文化の相対化を促す取り組みについての内容」欄にその組織の具体を記入してください。

※3 クラス数欄には、複数のクラスに分かれて実施している場合にはそのクラス数を、単一クラスには“1”を記入してください。

※4 目的での「活用・実践」とは、プレゼンテーションやPBL (Problem/Project Based Learning) などを行うことを示し、ここでは、その科目・プログラムの目的が近い方に○を記入してください。

※5 授業での使用言語で「その他」を選択した場合、「文化比較や自文化の相対化を促す取り組みについての内容」欄に使用言語を記入してください。

### 3. 英語で専門知識を学修する正課の専門科目

国内・キャンパスでの英語で専門知識を学修する正課の専門科目についてご記入ください。  
 (理工系等で6年一貫教育を掲げている学部は、6年間のプログラムについてご記入ください)  
 該当する科目は、全専門科目何科目のうちの何科目ですか。 \_\_\_\_\_ 科目中 \_\_\_\_\_ 科目  
 該当する科目のすべて、または代表的な科目の例について以下に記入してください。

履修時期※1			科目名	単位数	クラス数※2	履修状況		目的※3 (いずれかに○)		内容	当該科目と 関連する科目	授業での 使用言語 (いずれかに○)		担当教員の 立場(人)			担当教員の 母語(人)		
年次	学期					必修/ 選択	選択の場合の 履修率 ( $\geq$ %)	英語による専門知識・技 能の修得・定着	英語による専門知識・技 能の活用・実践			英語のみ	英語と日本語	常勤	非常勤	業者からの 派遣講師	日本語	英語	その他
	前期	後期																	
						$x < 20$ $20 \leq x < 40$ $40 \leq x < 60$ $60 \leq x < 80$ $x \geq 80$													
						$x < 20$ $20 \leq x < 40$ $40 \leq x < 60$ $60 \leq x < 80$ $x \geq 80$													
						$x < 20$ $20 \leq x < 40$ $40 \leq x < 60$ $60 \leq x < 80$ $x \geq 80$													
						$x < 20$ $20 \leq x < 40$ $40 \leq x < 60$ $60 \leq x < 80$ $x \geq 80$													
						$x < 20$ $20 \leq x < 40$ $40 \leq x < 60$ $60 \leq x < 80$ $x \geq 80$													

※1 履修時期では、年次欄には履修を指定あるいは推奨している年次を記入してください。学期欄には、担当している学期に○、通期開講の場合には前期・後期の両方に○、3学期制の場合の1学期は前期、2・3学期は後期として記入してください。

※2 クラス数欄には、複数のクラスに分かれて実施している場合にはそのクラス数を、単一クラスには“1”を記入してください。

※3 目的での「活用・実践」とは、プレゼンテーションやPBL (Problem/Project Based Learning) などを行うことを示し、ここでは、その科目・プログラムの目的に近い方に○を記入してください。



## 5. 単位認定されない正課外のプログラム

貴学部が単独で、または他の機関と連携して提供している、グローバル社会への対応に関する単位認定されない正課外の代表的なプログラムをご記入ください。(理工系等で6年一貫教育を掲げている学部は6年間のプログラムについてご記入ください)

例) 日本への外国人留学生と日本人学生による、あるいは地域コミュニティでの異文化理解に関する取り組み、NGO や公的/民間の組織と連携した取り組み、海外留学、海外プログラム、海外インターンシップ等、単位化されていない取り組み

プログラム名	参加者数 (例年の平均的 参加人数)	期間 (いずれかに○)					場所 (いずれかに○)		内容	連携先組織 (該当するものに○。複数回答可)						
		1 ヵ月 未 満	3 1 ヵ月 未 満 以上	6 3 ヵ月 未 満 以上	1 6 ヵ月 未 満 以上	1 年 未 満 以上	国 内	海 外		大 学	語 学 学 校	国 際 機 関	行 政 機 関	N N P G O ・	海 外 企 業	日 本 企 業

## Ⅲ グローバル社会への対応に関する教育支援 (学部の取り組みについてご記入ください)

### 1. グローバル社会への対応に関する教育を行うための支援制度

例) ポイントなどを取り入れた表彰制度、海外留学に関する奨学金制度、海外留学をしやすいカリキュラム設計やクォーター制の導入、海外留学希望者の CAP 制免除、海外留学での海外生活を支援するサービス・仕組みなど

1) クォーター制を導入していますか。 導入している・導入していない

2) 海外留学希望者の CAP 制免除の制度はありますか。 ある・ない

3) カリキュラムのナンバリング・GPA・成績評価等、国際化に向けた対応の取り組みがあれば具体的にご記入ください。

4) 学士課程において、ダブルディグリー・ジョイントディグリーの仕組みがありますか。あれば以下に具体的にご記入ください。

5) 海外留学に関する奨学金制度にはどのようなものがありますか。

貸与型・給付型・ない（いずれかに○を記入し、以下に具体をご記入ください）

6) 海外留学での海外生活を支援する、留学先（現地）でのサービス・仕組みがあれば教えてください。

7) 国内での日本人学生と留学生との交流の仕組み（例：ピアサポート、バディ制度、留学生との混住型学生寮等）があれば教えてください。

8) 日本人学生と大学外の外国人との交流の仕組みがあれば教えてください。

9) 上記以外にグローバル社会への対応に関する教育を推進するための支援制度・仕組みがあれば教えてください。

--

2. グローバル社会への対応に関する教育を推進する組織体制（学部内に設置されている場合のみご記入ください）

海外留学の相談、留学した学生のサポート、海外留学・プログラムにおける提携先の開拓等を担うような学部内組織についてご記入ください。

組織名	人員（人）				ミッション・機能
	教員		職員		
	全人員	うち専任	全人員	うち専任	

3. グローバル社会への対応に関する留学生の受け入れ等の状況

1) 学部で受け入れている留学生の人数をご記入ください。

① 2015 年度中に受け入れた留学生の人数

外国人正規入学者数 \_\_\_\_\_人（2015 年度の在籍者数） 交換留学生数 \_\_\_\_\_人（2015 年度全体で）

上記以外で、単位取得を伴う留学生 \_\_\_\_\_（具体的に） \_\_\_\_\_人（2015 年度全体で）

② 出身国上位 5 カ国 \_\_\_\_\_

**IV** グローバル社会への対応に関する教育のアセスメント

1. グローバル社会への対応に関する教育目標のアセスメントの仕組み

1) 貴学部にグローバル社会への対応に関する教育目標の学生における達成度、成果を測定する仕組みがあれば、具体的にご記入ください。

2) 貴学部にグローバル社会への対応に関する教育目標の達成度をアセスメントし教育改善に資する仕組みがあれば、具体的にご記入ください。

**V** その他（学部での取り組みをご記入ください）

1. 英語以外の語学教育

グローバル社会への対応に対応した教育で、科目やプログラムで扱う言語が英語以外の場合、その言語名と、カリキュラム設計上工夫されていることを教えてください。

## 2. 第二外国語の位置づけ

学部として、学士課程の中で第二外国語をどのように位置づけていますか。また、今後どのようにしていくご予定か、貴学部のお考えを教えてください。

## 3. その他の取り組み

その他、貴学部でグローバル社会に対応した大学教育に関する取り組みがございましたら、以下にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。